

団塊の世代へ 君は、デュエットの女王「安倍理津子」を知っているか

ハツ尾 順一

昨年11月下旬に、神戸にある「ラジオ関西」のスタジオで、CDの宣伝のために「税金ソング」を歌うことになった。「流行歌を訪ねて」という番組で、放送は土曜日の27時からということなので、皆が寝静まった日曜日の深夜に流される。誰がこの番組を聴いてくれるのか、一向に知らないけれど、ラジオ放送の録音は、幸い深夜ではなく、午後7時からということで、税金一座のバンド（ギター）の古屋創太郎氏、自称マネージャーで清文社のTさん、そして私の三人で、冬の冷たい六甲おろしの風に吹かれながらラジオ関西のスタジオに入った。

「流行歌を訪ねて」という番組のパーソナリティは、松原美穂という歌手・俳優そして司会業も行うというスーパーウーマンである。TBSの「水戸黄門」にも出演しているということなので、ひょっとすると、昔テレビでお目にかかっているかもしれない。

この番組は、佐々木義広氏がギターを弾き、松原美穂が歌うというスタイルを採っている（これが番組の目玉らしい）。ちなみに、佐々木氏と古屋氏は、昔からのギター仲間、今回のラジオ関西へ

の出演も佐々木氏から声がかかったという。

ところで、今回の録音の時に、早速「安倍理津子」が参加することになった。若い人には、この名前を言っても「ハア〜?」という返事しか返ってこないと思うけれども、私よりも少し年上の「団塊の世代」のおじいちゃん・おばあちゃんには、懐かしい名前を知っている人も多いと思う。

安倍理津子は、昭和時代にデュエットの女王として、一世を風靡した有名な歌手である。若い人に周知してもらうために、ここでデュエットの女王について、簡単に紹介することとする。なお、安倍理津子の「〇〇は、私の5番目の男」という台詞は有名であるが、これはデュエットをした相手の順番を言っているのであるから、くれぐれも勘違いしないようにしていただきたい。

1983年、橋幸夫の新作としてデュエット曲『今夜は離さない』制作に当たって作詞家から相手役オーディションの誘いを受け、先入観をなくすために名前を伏せて録音した数人の音源を聞いた中から橋幸夫らによって安倍が選出される。しかし、同曲ヒット後に自分ひとりでもやれると考えて橋の

事務所から一方的に離脱。以降、松方弘樹、桜木健一、林与一、誠直也らとデュエット曲を発表、「デュエットの女王」の異名を得る。

（ウィキペディアより）

その女王が「流行歌を訪ねて」という番組に、新曲の紹介のため出演するというので、スタジオでは、私の横に座ることになった（私の左側の女性）。1948年生まれであるから、現在76歳である（ちなみに、イーロン・マスクの母親であるメイ・マスクと同じ年齢である）。写真を見ていただいたら分かると思うが、とても若く、しかも歌声も衰えを感じさせない。新曲「思い出は翼」はYouTubeで観ることができるので、若返りのためにも、団塊の世代の皆さん、ぜひご覧ください。



なお、安倍理津子と古屋創太郎氏は、昔からの知り合いで、古屋氏は安倍理津子のライブのバックミュージシャンとして、一緒に活動していたという。この歌の世界も非常に狭いらしい。私も何年か前に、古屋氏の誘いで、神戸のライブハウス・チキンジョージで安倍理津子のショーを見たことがある（下の写真。なお、写真の奥の舞台上でギターを弾いているのが、古屋氏である）。



安倍理津子は、30分ぐらいスタジオにいたけれども、多忙なの

か、あっという間に消えて、その後、私の録音が始まった。もちろん、私も負けじと、新曲である「修正申告のすゝめ～センセイに捧ぐ」を発表した。

その時のスタジオの写真は、次のとおりである。



この写真だけを見ても、録音の状況が全く分からないので、以下に、YouTubeを貼り付けていますので、ご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=bYNTfa60dl4>

このYouTubeを観ていただくと、録音は①～④の順序になっている。ちなみに、②と③はプロの歌手である。

- ①「修正申告のすゝめ～センセイに捧ぐ」CDで2コーラス
- ②松原美穂の歌（佐々木氏のギター伴奏）
- ③小芝陽子の歌（佐々木氏のギター伴奏）
（「熊野の歌姫」と言われているという。）
- ④「年金ブルース」（佐々木氏のギター伴奏）1コーラス

YouTubeを観ていただくと分かるのであるが、④の「年金ブルース」は、突然、佐々木氏が贈呈した「音楽でわかる税金百科」の楽譜を見て、ギターを弾き始めたので、やむを得ず、それに応戦するかのように、冷や汗をかきながら、歌ったのである。今回は、台本のない番組で、ハプニング、驚きの連続であったが、2024年の記念すべき楽しい経験でもあった。